

Q 「乳がん検診」について教えてください。

回答：市立貝塚病院

副院長 乳腺外科部長 西 敏夫医師



A 乳がんは増え続けており、女性のかかる「がん」の中で一番多くなりました。「2016年のがん統計予測」によると乳がんにかかる人の数は9万人(女性の6)と推定されます。しかも働きざかりの方に多い特徴があります。し

診を平成16年には40才代の女性に対して乳がん検診として、マンモグラフィ(2方向)と触診を打ち出しました。触診で分る乳がんは最少1cmといわれています)通常2cm前後です。これは自分でも分かります。マンモグラフィを使って、

乳がんは、検診と自己触診が発見の第一歩

かし乳がんは他のがんに比べて、早期の段階に発見できれば治りやすいがんであることも分かっています。

平成12年に厚生労働

省は、自治体検診として50才以上の方に2年に1回のマンモグラフィ(1方向)と触診検

より小さながんをあるいは触れにくいがんを見つけることが、そして乳がん死亡を減少させることが乳がん検診の目標です。

しかし、一部の乳がんはマンモグラフィで写し出せない場合があることも知られており、

マンモグラフィ検診を受けていれば万全ということではありません。そのため年齢や乳がんリスクの有無に関わらず、月に1度、自己検診を行うことが非常に大切です。自己検診で自分の乳房に何か気になることがあれば、すぐに乳腺専門の医療機関を受診しましょう。

検診として、最低2年に1回のマンモグラフィ併用検診とその間を埋めるため、自己検診を行いましょ。

まず、自治体検診等を受けることをお勧めします。

問 072・4222・5

865 市立貝塚病院
(貝塚市堀3-10-20)
<http://www.hosp.kaitzuka.osaka.jp/>